

令和5年度

市政モニターアンケート調査結果
【 広聴について 】



長 崎 市
広報広聴課

1. 調査の目的

地域の問題や行政として取り組むべき課題を見極め、市民の皆さまと協働しながら、質の高い市政運営を行うために、市民の皆さまの声を聴取するとともに、いただいたご意見等にお応えする「広聴」機能の充実に努めております。

この広聴事業を通じて、市民の皆さまに市政運営に対する興味・関心、そして参画意識を高めていただくため、現状の把握をする調査を行いました。

2. 調査の概要

調査期間：令和6年2月1日～令和6年2月14日

送付数：268人（郵送モニター 199人 インターネットモニター 69人）

回答率：79.9%（214人）

（郵送モニター 161人 インターネットモニター 53人）

3. 調査結果

【市民の声の反映について】

長崎市の市政運営について、市民の声が反映されているか「分からない」と回答した人が52.8%と約半数を占めており、市民の皆さんの声をお聴きしながら市政運営を行っていることについて十分に伝わっていないことが分かりました。

また、「分からない」と回答した人を除くと、市民の声が「反映されていない」・「どちらかといえば反映されていない」と回答した人が38.6%でした。その理由として、「市民の意見に対して、どのように対応しているか分からない」と回答した人が81.6%と最も高く、また「市民が意見を伝える手段が確保されていない」「市がどのような計画・取組をしているか分からない」と回答した人がそれぞれ50.0%と続いており、市が行っている広聴の取組み等の情報発信が十分でないこと、市民の皆さんから意見をいただくためには、まずは市の取組みを理解してもらうための広報を充実させる必要があることが分かりました。

【市政運営への興味・関心、参画について】

市政運営に興味や関心が「どちらかといえばある」と回答した人が約半数の55.0%で、「ある」・「どちらかといえばある」を合計すると86.7%と高い割合でした。多くの人が市政運営に興味や関心を持っていることが分かりました。

市政運営に参画したいと「思う」・「どちらかといえば思う」と回答した人の合計は56.2%で、「思わない」・「どちらかといえば思わない」と回答した人の合計43.8%とおおよそ半々の結果でした。

【広聴制度の認知度について】

長崎市の広聴制度の中では「あじさいコール」を「知っている」方が半数以上と最も高い割合となりました。

市民の皆さんからのニーズの高い「あじさいコール」については、引き続き様々な問い合わせにワンストップで対応できるよう対応の精度を高め、さらなる充実を図っていきたいと考えています。また、「あじさいコール」以外の広聴制度についても、利用方法を積極的に周知する必要があることが分かりました。

【市政への意見・要望等について】

市政への意見・要望は「電話、文書、メール等で担当課へ伝える」が54.0%と最も高い割合となりました。

市民の声を市政に反映していくために、必要な取組みについては、広聴手段の拡充や、意見・要望への対応結果の公表、市の施策の周知など、多方面への取組みが必要とされていることが分かりました。

市民の皆さんに市政運営へ興味や関心を持ち、市政運営に参画したいと思ってもらえるよう、今後も広聴・広報を通じて、市民の皆さんとの良好なコミュニケーションを築いていけるよう取り組んでまいります。

4. 調査結果の見方

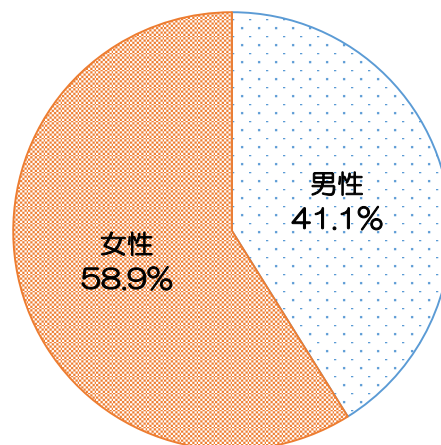
調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても100パーセントに合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、合計が100パーセントを上回る場合があります。

なお、回答者数の異なる問については、回答者の数を「N=〇〇人」で表現しています。

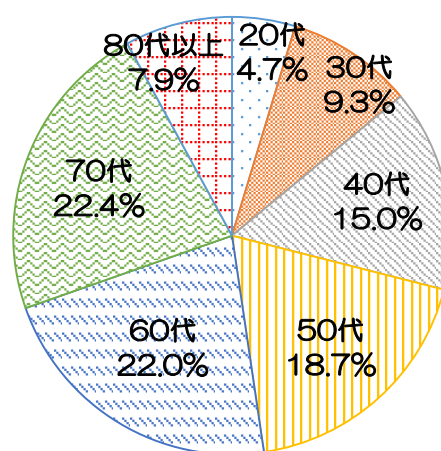
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	88人	41.1%
女性	126人	58.9%
合計	214人	100.0%



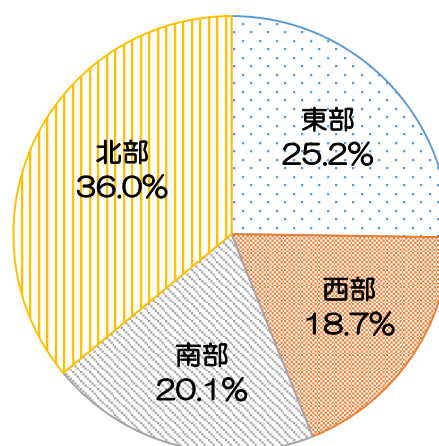
問2 あなたの年齢を選択してください。

選択肢	回答者数	割合
20代	10人	4.7%
30代	20人	9.3%
40代	32人	15.0%
50代	40人	18.7%
60代	47人	22.0%
70代	48人	22.4%
80代以上	17人	7.9%
合計	214人	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	54人	25.2%
西部	40人	18.7%
南部	43人	20.1%
北部	77人	36.0%
合計	214人	100.0%



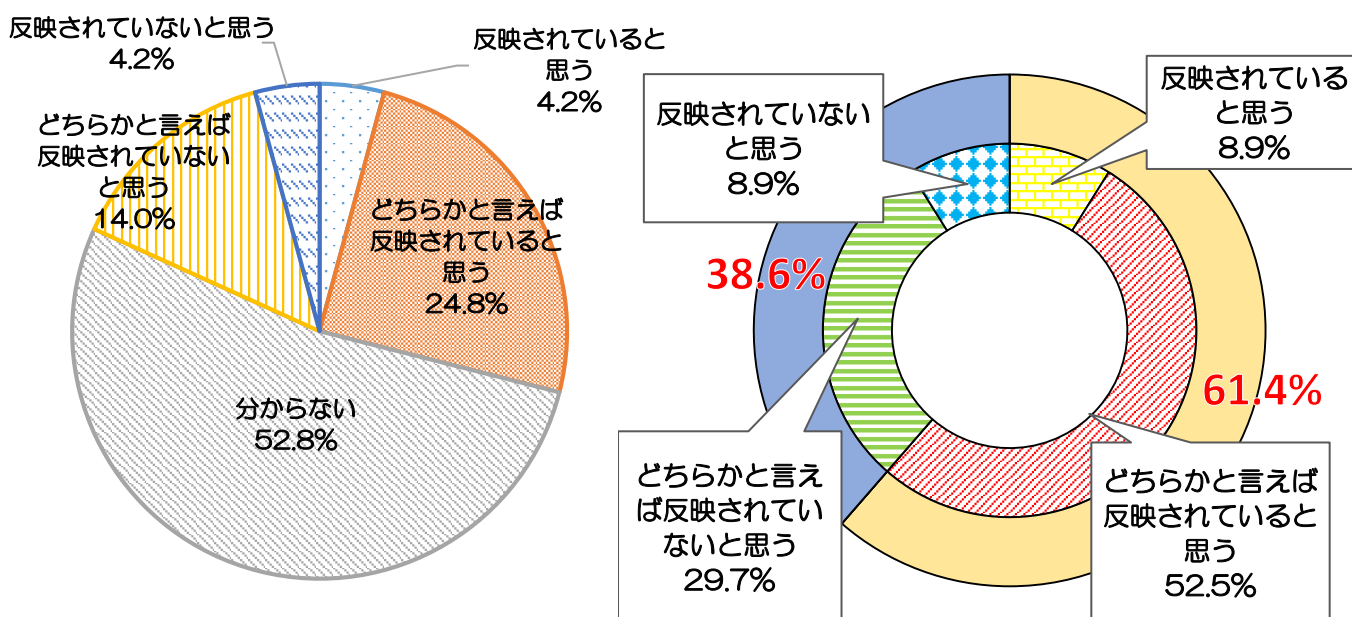
※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

問 4 長崎市の市政運営について、市民の声が反映されていると思われますか。
 (当てはまるものを1つ回答)

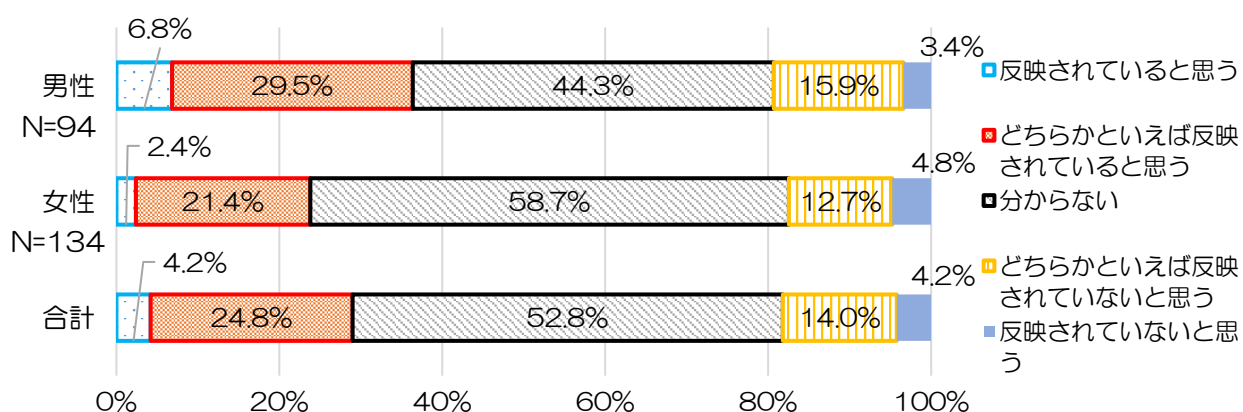
選択肢	回答者数	割合	割合※
反映されていると思う	9	4.2%	8.9%
どちらかと言えば 反映されていると思う	53	24.8%	52.5%
分からない	113	52.8%	
どちらかと言えば 反映されていないと思う	30	14.0%	29.7%
反映されていないと思う	9	4.2%	8.9%
合計	214	100.0%	100.0%

注「割合 ※」は、「分からない」を除く選択肢の回答割合

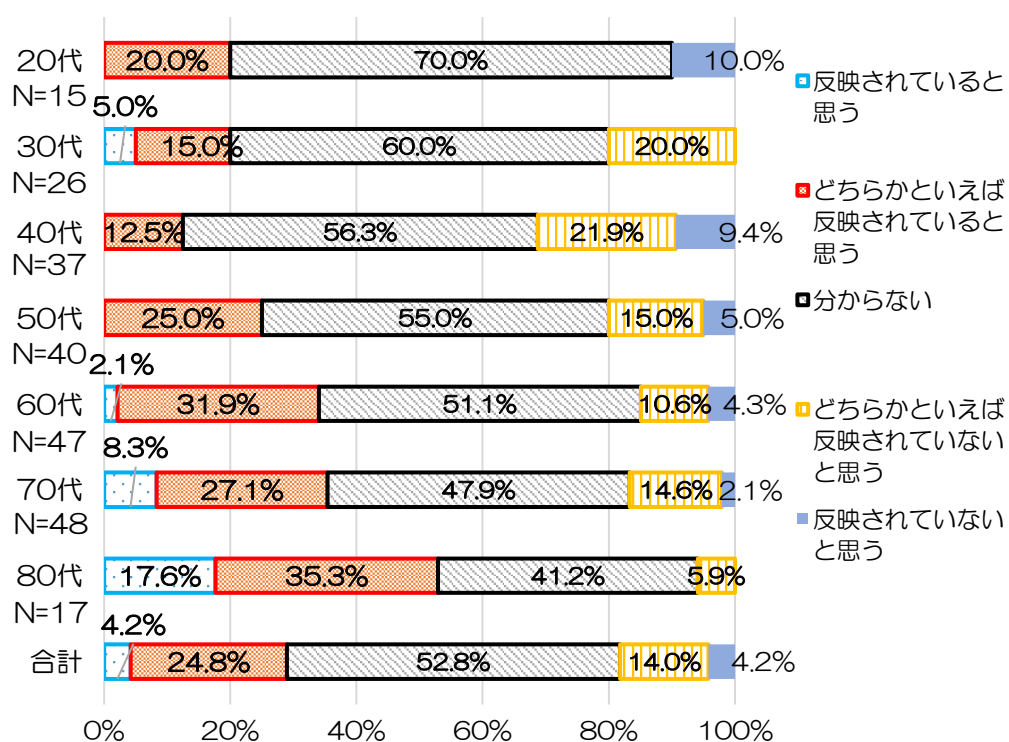
■「分からない」を含む回答割合 ■「分からない」を除いた回答割合



<性別割合>



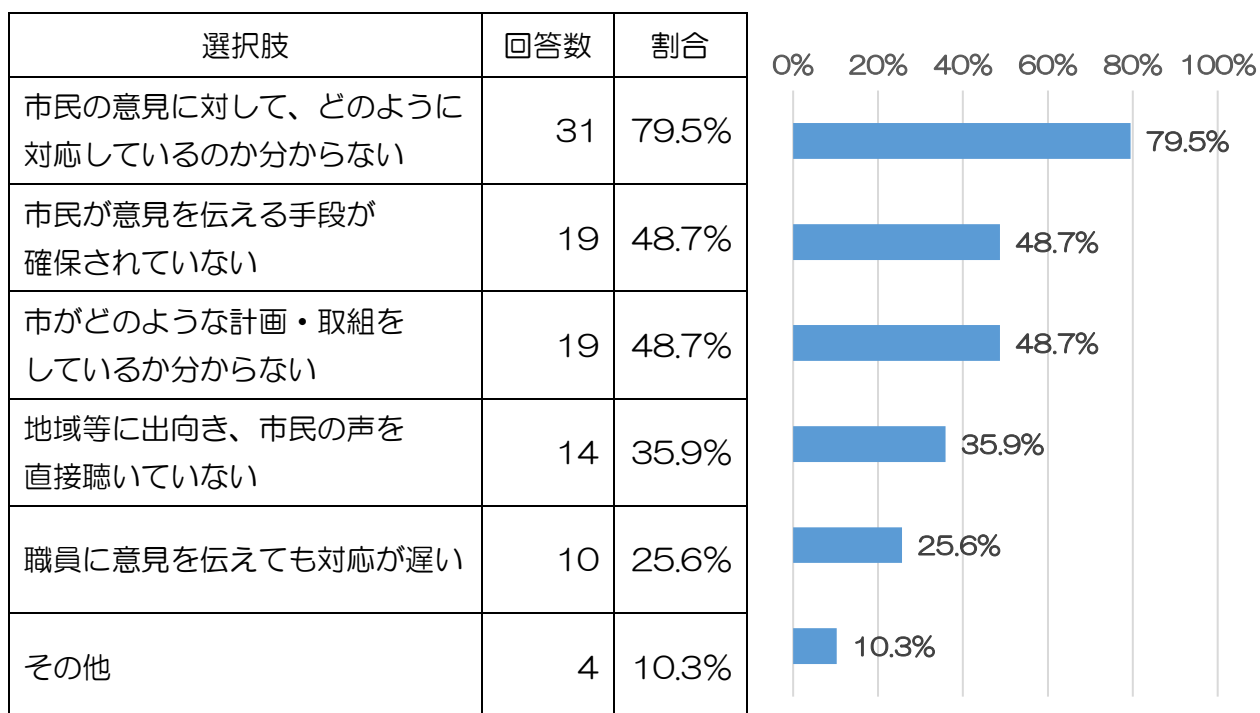
<年齢別割合>



約半数の52.8%の人が「分からない」と回答しており、市民の皆さんの声をお聴きしながら市政運営を行っていることについて十分に伝わっていないことが分かりました。

「分からない」と回答した人を除いた場合、「反映されている」と思っている人（「反映されていると思う」・「どちらかといえば反映されていると思う」の合計）は61.4%で、「反映されていない」と思っている人（「反映されていないと思う」・「どちらかといえば反映されていないと思う」の合計）の38.6%よりも割合が高いものの、約4割の方が「反映されていない」と思っていることが分かりました。

問5 「問4」で「4 どちらかといえば反映されていないと思う」「5 反映されていないと思う」と回答された方に質問です。そのように思う理由について該当するものをお選びください。（複数回答可）



（回答者数 39 人、有効回答数 93）

※「その他」の意見

- ・検討しなすと言われて、何も変わらないと聞いた事がある
- ・市民（から）の伝え方が周知されていない など

「市民の意見に対して、どのように対応しているか分からない」と回答した人が 79.5%と最も高く、また「市民が意見を伝える手段が確保されていない」「市がどのような計画・取組みをしているか分からない」と回答した人が 48.7%と続いており、市が行っている広聴の取組み、市民の皆さんからの意見をどのように生かしているか等の情報発信が十分でないことが分かりました。市民の皆さんから意見をいただくために、まずは市の取組みを理解してもらうための広報を充実させる必要があることが分かりました。

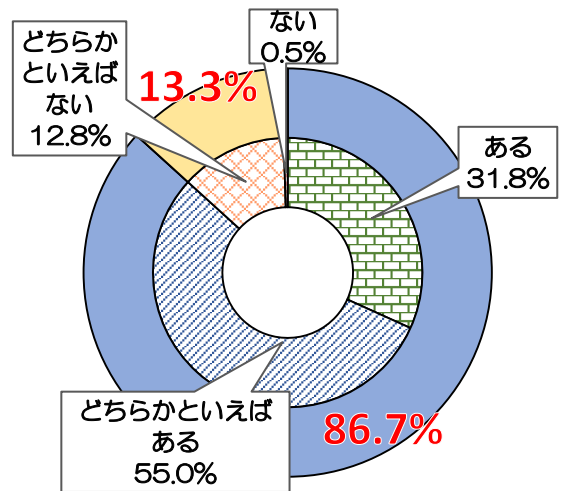
問6 長崎市の市政運営に興味や関心がありますか。

(当てはまるものを1つ回答)

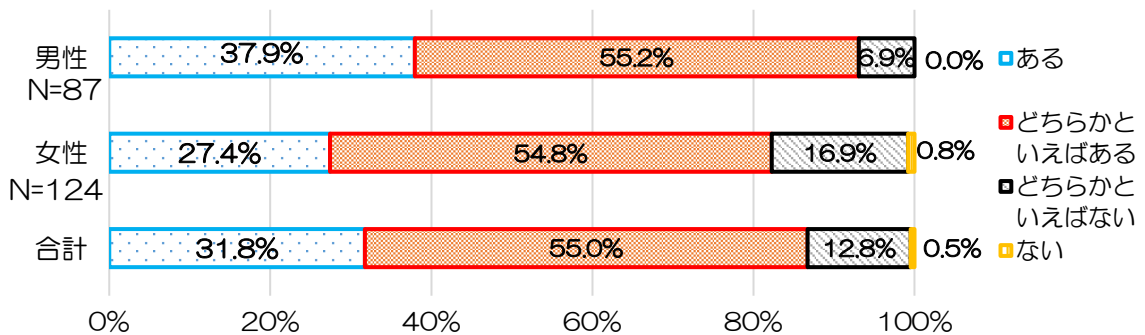
【市政運営とは：市が行うさまざまな分野の事業や取り組みのことをいいます。分野例) 防災、福祉、環境、平和、観光など】

選択肢	回答者数	割合 (%)	
ある	67	31.8	86.7
どちらかといえばある	116	55.0	
どちらかといえばない	27	12.8	13.3
ない	1	0.5	
合計	211	100.0	

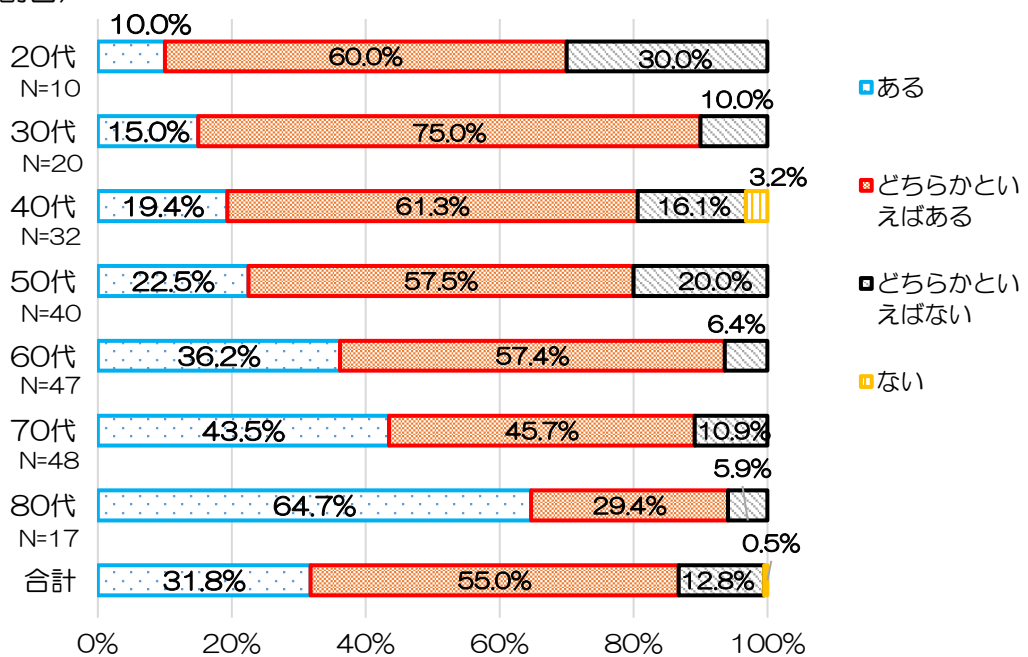
(無回答3人)



〈性別割合〉



〈年齢別割合〉



市政運営に興味や関心が「どちらかといえばある」と回答した人が約半数の 55.0%で、「ある」・「どちらかといえばある」を合計すると 86.7%と高い割合でした。多くの人が市政運営に興味や関心を持っていることが分かりました。

また、年齢別で見たときに、20代では市政運営に興味や関心が「どちらかといえばない」と回答した人が 30.0%いるものの、80代では「ある」・「どちらかといえばある」の合計が 94.1%となっており、年代が高い方が、市政運営への興味・関心が総じて高いことが分かりました。

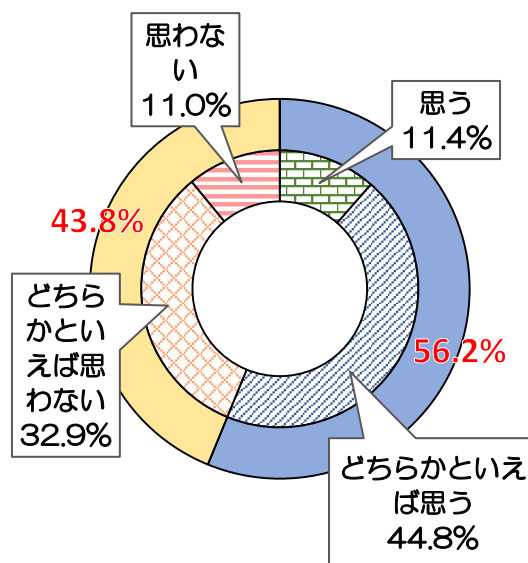
問7 長崎市の市政運営に参画したいと思いませんか。(参画している人も含みます。)

(当てはまるものを1つ回答)

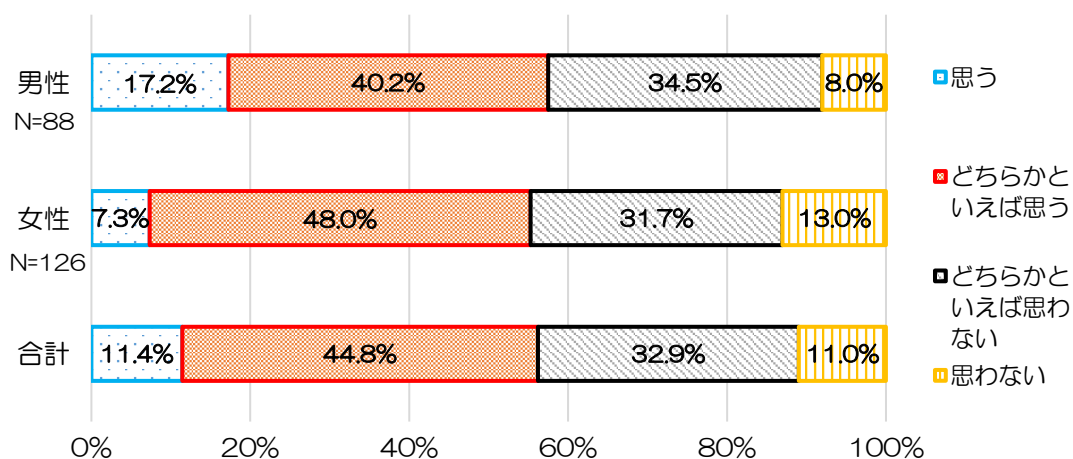
例) 自治会やNPOなどでの市のまちづくり活動への参加/審議会等の市民公募委員になる/消防団での活動/パブリックコメントへの意見の応募/地域での意見交換会やワークショップへの参加/イベントなどへボランティアでの参加/防災サポーターや認知症サポーターなどの各種サポーター活動

選択肢	回答者数	割合 (%)	
思う	24	11.4	56.2
どちらかといえば思う	94	44.8	
どちらかといえば思わない	69	32.9	43.8
思わない	23	11.0	
合計	210	100.0	

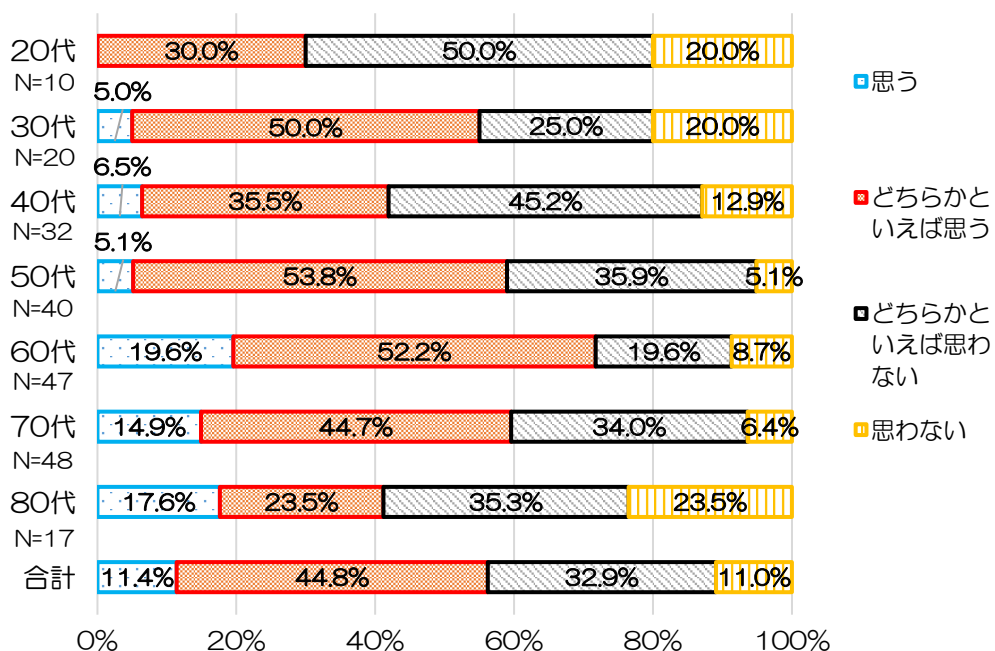
(無回答 4人)



〈性別割合〉



〈年齢別割合〉



市政運営に参画したいと「思う」・「どちらかといえば思う」と回答した人の合計は56.2%で、「思わない」・「どちらかといえば思わない」と回答した人の合計43.8%と、思っている人の割合がやや高い結果となりました。

【参考】「問 6 長崎市の市政運営に興味や関心がありますか」と「問 7 長崎市の市政運営に参画したいと思いますか」のクロス集計

		市政運営に参画したいと思う				合計		
		思う	どちらかといえ ば思う	どちらかといえ ば思わない	思わない	回答者数	割合 (%)	
市政に興味や関心がある	ある	19	29	15	3	66	31.6	86.6
	どちらかといえ ばある	5	61	39	10	115	55.0	
	どちらかといえ ばない	0	4	14	9	27	12.9	13.4
	ない	0	0	0	1	1	0.5	
合計	回答者数	24	94	68	23	209	100	
	割合 (%)	11.5	45.0	32.5	11.0	100		
		56.5		43.5				

分類	割合
市政に興味や関心があり、市政運営に参画したいと思っている人	54.5%
市政に興味や関心があるものの、市政運営に参画したいと思わない人	32.1%
市政に興味や関心がないものの、市政運営に参画したいと思っている人	1.9%
市政に興味や関心がなく、市政運営に参画したいと思わない人	11.5%
合計	100%

注：上記の「分類」については、次のとおり集計しています。

- ・「市政に興味や関心がある」
＝問 6 で市政に興味や関心が「ある」又は「どちらかといえばある」と回答した人の合計
- ・「市政に興味や関心がない」
＝問 6 で市政に興味や関心が「ない」又は「どちらかといえばない」と回答した人の合計
- ・「市政運営に参画したいと思う」
＝問 7 で市政運営に参画したいと「思う」又は「どちらかといえば思う」と回答した人の合計

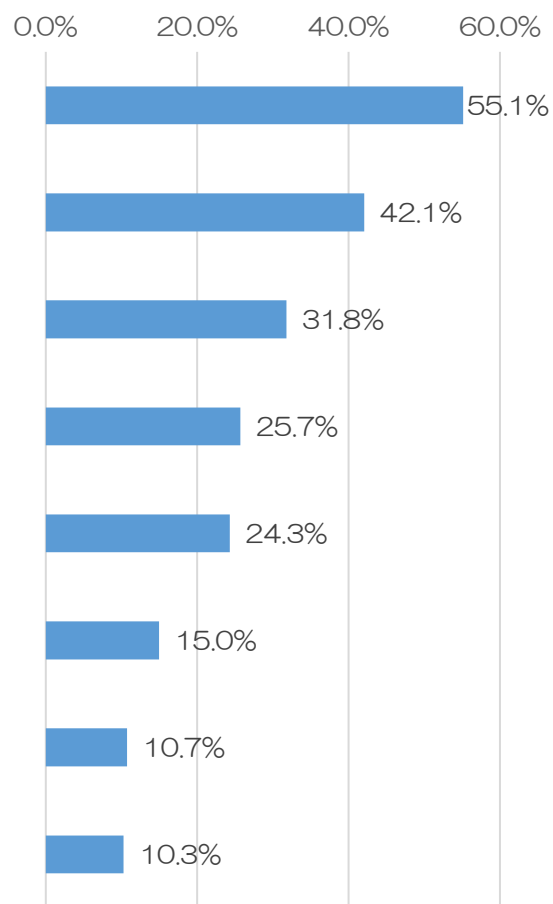
- 「市政運営に参画したいと思わない」
＝問 7 で市政運営に参画したいと「思わない」又は「どちらかといえば
思わない」と回答した人の合計

「市政に興味や関心があり、市政運営に参画したいと思っている人」は 54.5%で半数の人が市政運営に積極的な姿勢を持っていることが分かりました。

一方で、「市政に興味や関心があるものの、市政運営に参画したいと思わない人」が 32.1%で、市政運営に参画することに対して、抵抗感を感じている人が多くいることが分かりました。

問8 広報広聴課が所管している次の広聴制度について知っていますか。
 あてはまるものをお選びください（複数回答可）

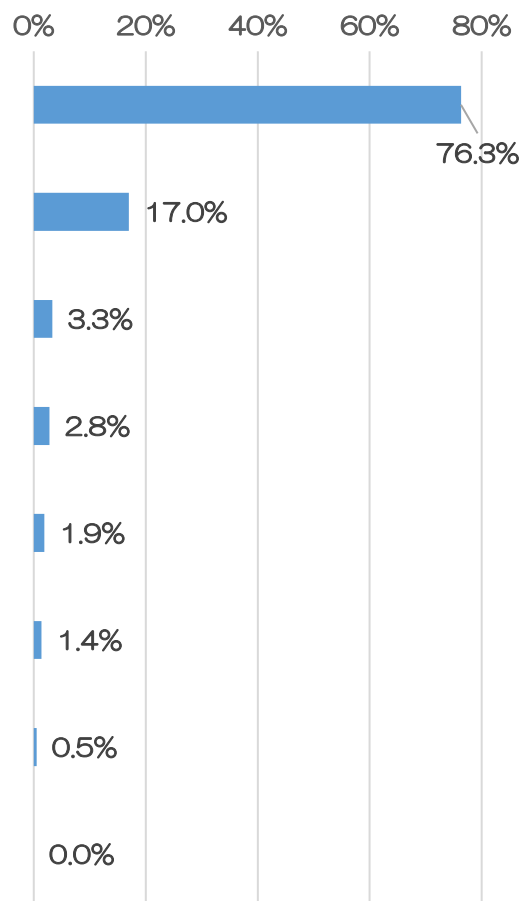
選択肢	回答数	割合
あじさいコール	118	55.1%
広報紙へのお便り	90	42.1%
ご意見箱	68	31.8%
陳情・要望	55	25.7%
市政への提案	52	24.3%
パブリック・コメント	32	15.0%
シンナガサキ ミーティング	23	10.7%
いずれも知らない	22	10.3%



(回答者数 214 人、有効回答数 460)

問9 広報広聴課が所管している次の広聴制度について利用又は参加したことがありますか。あてはまるものをお選びください。(複数回答可)

選択肢	回答数	割合
いずれも利用又は参加したことがない	161	76.3%
あじさいコール	36	17.0%
陳情・要望	7	3.3%
広報紙へのお便り	6	2.8%
パブリック・コメント	4	1.9%
ご意見箱	3	1.4%
市政への提案	1	0.5%
シンナガサキミーティング	0	0.0%

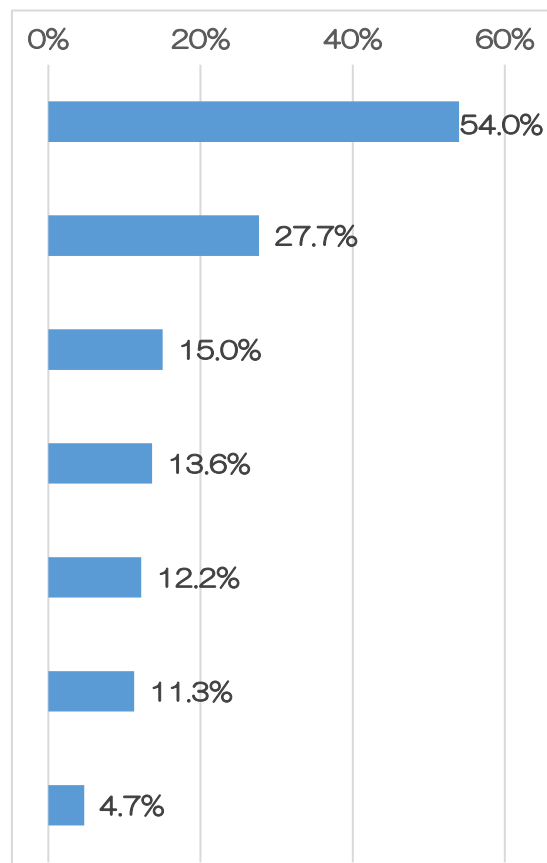


(回答者211人、無回答3人、有効回答数218)

広報広聴課が所管している広聴制度について、「いずれも利用又は参加したことがない」が161人と、実際の利用や参加には至っていない方が多くいることが分かりました。「知っている」、「利用又は参加したことがある」ともに、あじさいコールが最も割合が高く、一番親しまれている広聴手段であることが分かりました。

問 10 市政に関して意見や要望がある場合に、どのような手段を選びますか。あてはまるものをお選びください。（複数回答可）

選択肢	回答数	割合
電話、文書、メール等で担当課へ伝える	115	54.0%
自治会を通じて伝える	59	27.7%
「市政への提案」制度を活用して伝える	32	15.0%
市議会議員を通して伝える	29	13.6%
直接、担当課を訪問して伝える	26	12.2%
伝えるつもりはない	24	11.3%
その他	10	4.7%



（回答者数 213 人、無回答 1 人、有効回答 295）

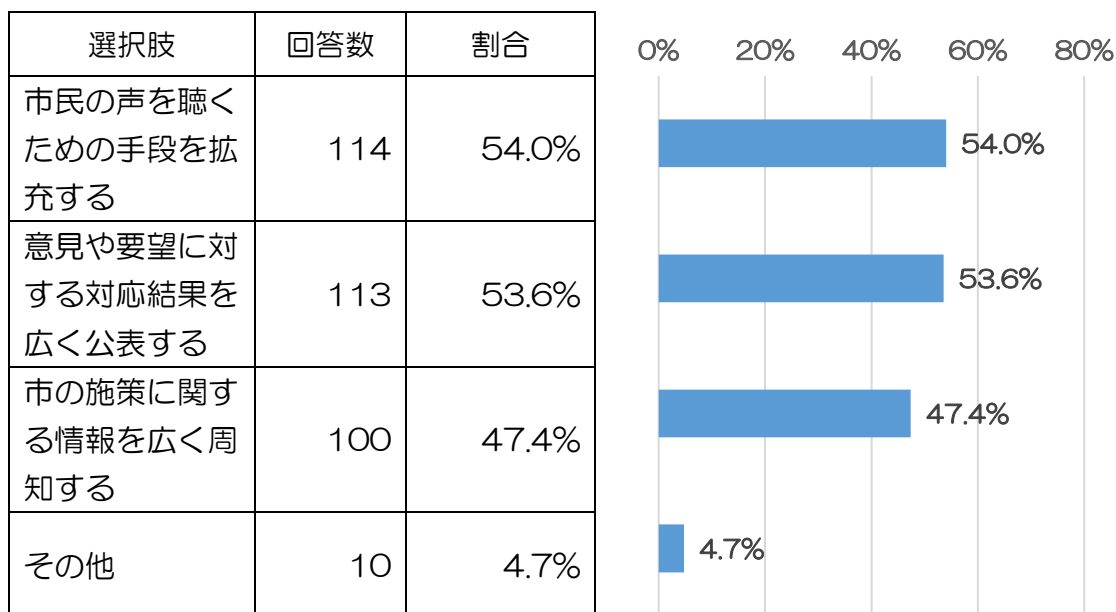
※「その他」の意見

- ・このモニターアンケートのようなものがあるといい。
- ・考えたことがない
- ・手段がわからないから、行動しない
- ・知人の集まり等の時、国、県、市に対しての意見等話し合っている
- ・あじさいコールへ問い合わせる など

「電話、文書、メール等で担当課へ伝える」が54.0%と高い割合となっており、何らかの手段で、所管する担当課へ直接伝えようとする方が多いことがわかりました。

また、「自治会を通じて伝える」方も27.7%と比較的多く、今後も引き続き自治会要望などの仕組みも周知する必要があるとわかりました。

問 11 市民の声を市政に反映していくためには、どのような取組みを充実させていくべきだと思いますか。あてはまるものをお選びください。（複数回答可）



（回答者数 211 人、無回答 3 人、有効回答数 337）

※「その他」の意見

- ・企業学校などを通して伝えやすい環境作りが必要と感じる
- ・モニター郵送のミニ版、広報課にハガキを送る。小学生から高齢者まで簡単にできると思います。
- ・優先事項を決めて重点的に聞く

など

市民の声を市政に反映していくための取組みとして、「市民の声を聴くための手段を拡充する（54.0%）」、「意見や要望に対する対応結果を広く公表する（53.6%）」、「市の施策に関する情報を広く周知する（47.4%）」の3つの選択肢に大きな差はなく、これらの取組みについて複合的に実施していく必要があることがわかりました。